

連合研究科共同研究プロジェクト研究成果報告書

プロジェクトの名称	情動知能を育む教育「人間発達科」の新たな展開 ―児童生徒の問題行動防止教育プログラムの開発に関する実践的・学際的・国際的アプローチ―		
研究期間	平成 21年 4月 1日～平成 24年 3月 31日	プロジェクト記号	K
チーム構成員の氏名・職名等・所属（配属）大学（◎：チームリーダー，所属は実施当時）			
◎ 松村京子・兵庫教育大学教授	柘植雅義・国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員		
西岡伸紀・兵庫教育大学教授	鬼頭英明・兵庫教育大学教授		
立屋敷かおる・上越教育大学教授	吉本佐雅子・鳴門教育大学教授		
並木茂夫・日本学校保健会事務局次長	植田悦司・兵庫教育大学附属小学校教諭		
柴田順次・兵庫教育大学附属小学校教諭	永倉仁貴・兵庫教育大学附属小学校教諭		
稲垣明美・滋賀県栗東市立治田東小学校教頭	笹口浩子・福岡県新宮町立新宮東小学校教諭		
細谷里香・博士課程学生（兵庫教育大学）	江寄和子・博士課程学生（鳴門教育大学）		

プロジェクトの研究成果

I. 研究の目的

近年、子どもたちのなかで、いじめ、不登校、喫煙・飲酒・薬物乱用、自殺、少年犯罪など、深刻な問題が多発している。これらの問題に対しては、対症療法ではなく、問題の発生そのものを未然に防ぐ一次予防が極めて重要である。そのためには、子ども自身が自分を律する調整能力を身につけることや、他者と適切にかかわることができる対人関係能力の育成が欠かせない。それは「情動知能」として注目を浴びている能力でもある。申請者らは、平成 14 年度から 6 年間、文部科学省研究開発学校指定を受けて、兵庫教育大学附属小学校に特設教科「人間発達科」を設置し、「情動知能」に関する学習プログラムの開発を行なってきた。本プロジェクトでは、その研究を基盤として、児童生徒の情動社会性の問題解決に向けてのプログラム開発を目的として、実践的研究を多面的、国際的に進めることとした。

II. プロジェクトの推進体制

研究プロジェクトの推進体制を図 1 に示す。プロジェクトを校種及び研究対象によって 7 グループに分けて研究を進めた。

各年度に 1～2 回、全体の推進会議を開催し、研究の推進状況の報告及び進め方について検討を行った。

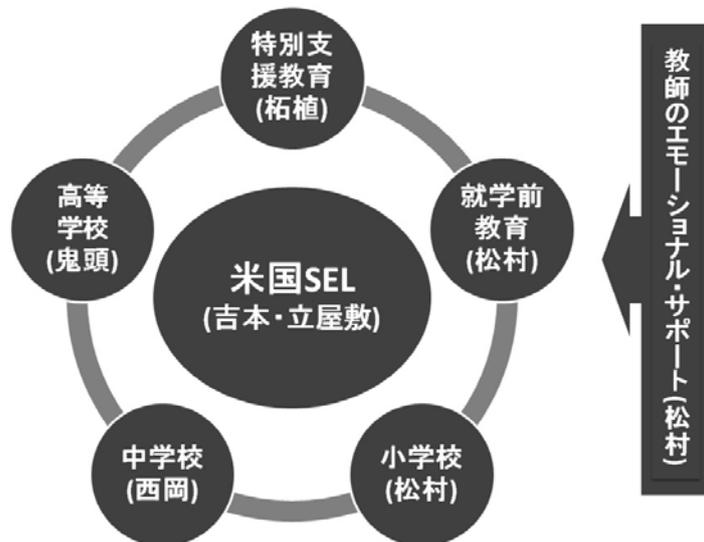


図 1 プロジェクトの推進体制

Ⅲ. 研究成果の概要

1. 米国の情動・社会性の学習 (SEL) 調査グループ

子どもたちの問題は、北米やヨーロッパでも起きている。しかし、日本より早くから深刻な状況に陥っていた米国では、対症療法ではない、予防としての教育の重要性が提言され、予防教育が推進されてきた。その中心的役割を推進してきた組織が The Collaborative for Academic, Social and Emotional Learning (CASEL) である。CASEL は Emotional Intelligence の著者 Daniel Goleman が中心になって、1994 年に設立されたものである。CASEL では、学校や職場で成功するために、子どもの基本的な社会情動コンピテンスを促進する社会情動学習 (Social and Emotional Learning: SEL) を進めている。この学習は、いじめ、仲間の圧力、性・薬物・アルコールに関する危険要因など、子どもたちのウェルビーイングや学校の秩序を脅かすこれらのネガティブな行動に対する予防策となると述べられている。そして、CASEL のミッションは、就学前から高等学校までの教育として SEL プログラムを導入することにより、子どもの健やかな発達とウェルビーイングを促進することであるとしている。

このグループは、米国の SEL を最も強力に推進しているイリノイ州の SEL スタンダードについて、調査を行い、発達に応じた SEL の内容を明らかにした。また、22 の SEL プログラムの活動の特徴などもあげられた。これらは、他のグループの情動・社会性の学習推進のための基礎的研究となった。

2. 就学前教育グループ

University of Maryland, Baltimore County の Schultz 博士らと共同研究を行い、日本の小 1 プロブレムの予防を目的とした START (Social Thinking & Academic Readiness Training) プログラムを開発した。その中から実行機能に関するレッスンを抽出し、START プログラム就学準備教育版を作成した。加西市教育委員会と連携して、就学直前の年長児に対してプログラムを実施した。プログラムの効果について、子どもたちの実行機能の測定、指導者の指示に対する子どもの行動応答性、指導者による行動観察、指導者に対する意識調査によって検討した。その結果、プログラム実施によって実行機能の向上が見られた。また指導者についても、子どもの集中状態に注目するようになったこと、集中を促す具体的な指導方法が身についたことなど、効果がみられた。

3. 小学校教育グループ

上で述べた START プログラムを福岡と兵庫の小学校 1 年生に対して実施した。その結果、実施群では集中して話を聞く能力、教師の指示への応答性が向上し、START プログラムの効果が実証された。また、兵庫教育大学附属小学校では、「人間発達科」を継承する学習として「情動学習」を立ち上げ、UCLA 実験校で開発された情動コントロールのためのプログラム「COOL TOOLS」も取り入れた実践を行った。500 名以上の参加者がある研究大会で、「情動学習」の授業公開とシンポジウムを行い、多くの学校への普及にも貢献している。

4. 中学校教育グループ

加西市立北条中学校において、総合的な学習の時間を中心にライフスキル教育を実践した。特に 2 年生では、対人関係スキルを重点に、「良い友人関係」「自己主張」などについて 8 時間実施した。それらの指導は、道徳、教科、課外活動等の指導にも関連づけた。また、ライフスキル教育先進校の管理職であった (財) 日本学校保健会次長並木茂夫氏の講演を受けて、全校生徒を対象に、ライフスキル教育に関わる質問紙調査を実施した。その結果、本プロジェクトで実施した対人関係スキルに重点をおいたライフスキル教育の有効性が確かめられた。

5. 高等学校教育グループ

薬物乱用に対する意識と生活習慣、クラブ活動との関連性等を分析した結果、運動部に所属する生徒は薬物乱用の経験はわずかであり、薬物との接触の機会が減少することによるものと推察された。しかしながら、校外スポーツクラブ活動参加による外的環境がきっかけとなって、薬物乱用に対する関心が高くなり、薬物乱用経験に繋がる可能性も明らかとなった。また、高校生の「医薬品の正しい使い方」理解のための効果的な指導方法について、保健学習および総合的な学習の時間での授業実践を行った。グループディスカッションや実験、空箱や医薬品の説明書等を活用し、実生活での場面を想定させる等の工夫により、生徒の医薬品に対する意識が顕著に向上した。高校生のメディア活用についても、研究を進めた。

6. 特別支援教育グループ

ソーシャルスキルトレーニング (Social Skills Training; SST) の中でも、近年特に話題になってきている、学級規模で行うクラスワイド SST (以下 CSST) 及び学校規模で行うスクールワイド SST (以下 SSST) について取り上げ、その意図、方法、特色について検討を行った。さらに、研究動向及び実践事例から、SST 及び SSST の有効性と限界について明らかにした。

7. 教師によるエモーショナル・サポートグループ

教師による子どもとの情動的関わりの質は、子どもの教育において非常に影響の大きいものであるため、優れた教師の日々の情動的関わりのあり方を知ることは、教師と子ども双方の発達にとって意義のあることと考えられる。また、教師によるエモーショナル・サポートはアカデミックサポートにも影響を与え、子どもの学力向上にも関わることが報告されている。そこで、優れた教師が子どもと関わっている際の情動体験と情動表出パターン、および情動調整プロセスを明らかにし、教師のエモーショナル・サポートの在り方及び教員養成教育について考察した。

IV. 研究成果の公表

〔論文〕(計 19 件)

- 細谷里香, 松村京子 (2012) 児童と関わる時の教育実習生の情動能力—優れた教師との比較—, 発達心理学研究, 印刷中
- 富岡 剛, 上田裕司, 鬼頭英明, 西岡伸紀 (2012) 新高等学校学習指導要領による科目「保健」の医薬品に関する授業実践研究. 教育実践学研究 第 13 巻, 21-30
- 尾崎朱, 柘植雅義 (2012) 幼稚園と小学校で行うクラスワイド S S T による移行の効果. LD 研究, 21(1), 102-115.
- 田中淳司, 柘植雅義 (2012) 中学校におけるスクールワイド S S T の効果に関する研究—生徒指導に特別支援教育の視点を取り入れた支援の効果と限界について—. 国立特別支援教育総合研究所ジャーナル (特総研ジャーナル), 創刊号, 16-22.
- 西岡伸紀 (2012) 喫煙, 飲酒, 薬物乱用防止に活かすライフスキル教育, 健康教室 735 集, 23-25
- 細谷里香, 松村京子 (2011) アフタースクールにおける小学校 1 年生の学習行動と内発的学習意欲に関する研究. 教育実践学研究(日本教育実践学会)12 (2), 1-8
- Hosotani R, Imai-Matsumura K (2011) Emotional experience, expression, and regulation of high-quality Japanese elementary school teachers. Teaching & Teacher Education. 27, 1039-1048
- 細谷里香, 松村京子 (2011) 認知特性と個別ニーズに基づいた学習支援—算数の遅れが顕著な小学 4 年生の事例—. 臨床発達心理学研究 (日本臨床発達心理士会) 6, 115-121
- 鬼頭英明 (2011) 薬物乱用の現状と学校教育での対応—青少年の薬物乱用—, 犯罪と非行, 169, 20-49
- 鬼頭英明 (2011) 医薬品に関する指導の充実を目指して, RAD-AR News Vol21 No.4, 4-6
- 西岡伸紀 (2011) 安心・安全の新常識 危険行動防止① 青少年の喫煙, 飲酒, 薬物乱用の実態と, その関連要因について, 週刊教育資料 NO. 1176, 18-19
- 西岡伸紀 (2011) 安心・安全の新常識 危険行動防止② 喫煙, 飲酒, 薬物乱用に対する防止教育の進め方, 週刊教育資料 NO. 1177, 24-25
- 西岡伸紀 (2011) 安心・安全の新常識 危険行動防止③ 喫煙, 飲酒, 薬物乱用防止とライフスキル育成, 週刊教育資料 NO. 1178, 18-19
- 西岡伸紀 (2011) 安心・安全の新常識 危険行動防止④ 喫煙, 飲酒, 薬物乱用の防止に向け個人と社会環境を包括した対策を, 週刊教育資料 NO. 1179, 24-25
- 松村京子 (2010) 情動知能が子どもを伸ばす, 子ども学 (甲南女子大学国際子ども学研究センター) 第 12 号, 29-49
- 柘植雅義 (2010) わが国の最近 1 年間における教育心理学の研究動向と展望 特別支援教育部門: 特別支援教育に関する教育心理学的研究の動向と展望—発達障害関係の研究を中心に—. 教育心理学年報(日本教育心理学会) 第 49 集 (2009 年度), 130-139..
- 西岡伸紀 (2010) 児童・生徒の傷害防止のための包括的な安全対策とセーフティプロモーション, 日本健康教育学会誌 18 巻 3 号, 219-229
- 西岡伸紀 (2010) ライフスキル教育 危険行動を避け, よりよい人間関係を育むためのスキルを学ぶ, 児童心理, 2010 年 10 月号臨時増刊, 54-59
- 松村京子 (2009) 豊かな情動を育む教育. 児童心理(金子書房) No. 895, 60-64

〔図書〕(計 10 件)

- 松村京子編著 (2012) 学校における情動・社会性の学習—就学前から高等学校まで—, 日本学校保健会/丸善
- 柘植雅義・篁倫子・大石幸二・松村京子編著 (2012) 対人援助専門職のための発達障害者支援ハンドブック, 金剛出版
- 松村京子 (2011) DVD: 小 1 プロブレム予防のための STRAT プログラム vol.1 感情についての論理的な考え方. 医学映像教育センター
- 松村京子 (2011) DVD: 小 1 プロブレム予防のための STRAT プログラム vol.2 注意集中と興奮・イライラへの対応. 医学映像教育センター
- 松村京子 (2011) DVD: 小 1 プロブレム予防のための STRAT プログラム vol.3 友だち間の問題解決と感情コントロール. 医学映像教育センター
- 松村京子 (2011) DVD: 小 1 プロブレム予防のための STRAT プログラム vol.4 不快な感情の理解と善意の解釈. 医学映像教育センター
- 西岡伸紀 (2011) 現代的な健康課題—喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育, 性行動, 生活習慣, 情報リテラシー—, 学校保健マニュアル<改訂 8 版>, p77-88, 南山堂
- 鬼頭英明 (執筆編集), (2011) 「医薬品」に関する教育の考え方・進め方, 日本学校保健会
- 柘植雅義・秋田喜代美訳 (2010) 教室の中の気質と学級づくり—縦断研究から見えてきた個の違いの理解と対応—. (Barbara K.Keogh, 2003, Temperament in the Classroom: Understanding Individual Differences. Paul H. Brookes Publishing Co., Maryland, USA.), 金子書房.
- 柘植雅義 (2011) 特別支援教育関連項目執筆 (「特別支援教育」「院内学級」「フリースクール」). 加藤敏・神庭重信・中谷陽二・武田雅俊・鹿島晴雄・狩野力八郎・市川宏伸編集, 現代精神医学事典. 弘文社

〔学会発表等〕(計 15 件)

- Imai-Matsumura K (2012) The effect of the START program on self-control in first grade and preschool children: A video-based eye-tracker study. Visiting Scholar Guest Lecture in Center for Advanced Study of Teaching and Learning (CASTL), University of Virginia.
- 藤原奈奈子, 松村京子(2012) 就学準備のための START プログラムの実践とその効果. 日本発達心理学会第 23 回大会
- 細谷里香, 北川里奈, 松村京子(2012) 児童のニーズに応じた算数支援による学習意欲の変容. 日本発達心理学会第 23 回大会
- Imai-Matsumura K, Sasaguchi K, Betkowski J A, Schultz D A. (2011) The effect of the START program on self-control in first grade elementary school children: A video-tracking study. 15th European Conference on Developmental Psychology
- Hosotani R, Imai-Matsumura K. (2011) Emotional Strategies used by Elementary School Teachers when Interacting with Children. 15th European Conference on Developmental Psychology
- Hosotani R, Imai-Matsumura K. (2011) How do good elementary school teachers express and regulate their emotions in front of children? European Conference on Educational Research 2011
- 松村京子, 笹口浩子(2011) 小1プロブレム防止のための START プログラムの開発と効果—視線分析による集中力の変容の検討—. 日本発達心理学会第 22 回大会
- 山口香織, 松村京子(2011) 小学生の乳児情動の認知に関する縦断研究. 日本発達心理学会第 22 回大会
- 細谷里香, 松村京子(2011) 子どもに対する教師の情動的アプローチ. 日本教育実践学会第 14 回研究大会
- 藤原奈奈子, 松村京子(2011) 就学準備のための START プログラムの実践とその効果. 日本教育実践学会第 14 回研究大会
- 細谷里香, 松村京子(2010) 教育実習生の児童に対する情動調査・表出に関する研究. 日本発達心理学会第 21 回大会
- 富岡剛, 上田裕司, 足立節江, 菊地素史, 佐々木佳祐, 西岡伸紀, 鬼頭英明 (2010) 医薬品に関する高校生の意識と効果的な授業法について, 第 57 回日本学校保健学会
- 津田英也, 湯浅美香, 大倉幸子, 鬼頭英明, 西岡伸紀 (2010) JSPD 調査に基づく高校生の生活習慣と薬物乱用・ドーピングの要因に関する検討, 第 57 回日本学校保健学会
- 湯浅美香, 津田英也, 大倉幸子, 鬼頭英明, 西岡伸紀 (2010) JSPD 調査に基づく高校生の部活動と薬物に対する意識の検討, 第 57 回日本学校保健学会
- Hosotani R, Imai-Matsumura K. (2009) Learning Motivation among Early Elementary School Aged Children. 14th European Conference on Developmental Psychology

〔新聞掲載等〕(計 13 件)

- 教育医事新聞 (2012) 2 月 25 日号「小1プロブレム予防『START プログラム』DVD 全 4 巻」原案監修者インタビュー (松村京子)
- ニュースセルフメディケーション (日本 OTC 医薬品協会) No.3 (2012), 巻頭インタビュー, (鬼頭英明)
- 日本教育新聞 (2011) 4 月 18 日号「小1プロブレム予防 DVD 作る」(松村京子)
- 神戸新聞(2011) 4 月 12 日号「小1プロブレムを防げ」(松村京子)
- 日本教育新聞(2011) 4 月 4 日号「連載: 特別支援教育コーディネーターを育てる・生かす(1) - 誰を指名するか 学校経営戦略から考える」(柘植雅義)
- 日本教育新聞(2011) 4 月 11 日号「連載: 特別支援教育コーディネーターを育てる・生かす(2) - 年度初め全児童生徒のニーズの調査から-」(柘植雅義)
- 日本教育新聞(2011) 4 月 18 日号「連載: 特別支援教育コーディネーターを育てる・生かす(3) - 授業改善助言, 研究会の工夫で教員を支援-」(柘植雅義)
- 日本教育新聞(2011) 4 月 25 日号「連載: 特別支援教育コーディネーターを育てる・生かす(4) - 充実に向けて分掌, 学校評価に位置付け組織で推進-」(柘植雅義)
- 神戸新聞 (2011) 2 月 7 日号「学習意欲の向上には—『ほめる』重要性強調」(松村京子)
- 日本教育新聞特集 (2010) 4 月 5 日号「特集: 生徒指導健康教育に生かすライフスキル教育」意志決定スキルを育てる教育(1) 選択肢と結果を幅広く考える (西岡伸紀)
- 日本教育新聞特集 (2010) 4 月 12 日号「特集: 生徒指導健康教育に生かすライフスキル教育」意志決定スキルを育てる教育(2) 具体的場面を設定し意見交換 (西岡伸紀)
- 日本教育新聞特集 (2010) 5 月 24 日号「特集: 生徒指導健康教育に生かすライフスキル教育」対人関係スキルを育てる教育(1) 情報や感情を整理し伝える (西岡伸紀)
- 日本教育新聞特集 (2010) 6 月 7 日号「特集: 生徒指導健康教育に生かすライフスキル教育」対人関係スキルを育てる教育(2) 役割演技での話の効き方を学ぶ (西岡伸紀)